

つなげる力を、明日のために。トークネットのコミュニケーションマガジン「ジョイント」

# Joint

vol. 27  
2019 June



青森ねぶた祭  
(青森市)

未来への挑戦 [特集インタビュー]

## 「棟方志功の想いをつなぐ」

棟方志功研究家 石井頼子氏

技をつなぐ 十和田きみがらスリッパ生産組合様

導入事例 [新たな価値をつくるビジネス] 東北芸術工科大学様

地域ナビ [福島編]





故郷青森を想い創作された棟方作品。  
 (右)『飛神(とびかみ)の柵』(1968年)、『御志羅(おしら)の柵』とも呼ばれる。  
 (左)『八甲田山の柵』(1971年)。  
 (2作品とも棟方志功記念館所蔵)



# Joint

CONTENTS vol.27 2019 June

[表紙のイラスト]  
 毎年8月2日～7日に開催される「青森ねぶた祭」。“人形ねぶた”と呼ばれる山車灯籠が市街中心部を運行し、囃子に合わせて踊る(ハネト)が「ラッセラー、ラッセラー」と声をあげながら踊り歩きます。ハネト衣装のレンタルがあり、観光客も参加できます。

「Joint」バックナンバーはHPでご覧いただけます。  
<https://www.tohknet.co.jp/joint/>



14

お客さま紹介  
**東北電化工業様**  
 (山形市)  
 クラウド接続サービス(AWS)の案内  
 読者プレゼント

13

地域の旬情報 **Joint's TOPICS**  
 夏を象徴する一大イベント  
 「ぎおん柏崎まつり」が開催されます

11

導入事例「新たな価値をつくるビジネス」  
 学生と教職員が快適にネットワークを利用できる環境を実現  
 東北芸術工科大学様

09

地域ナビ  
 知りたい、伝えたい！地元の魅力  
 福島編

07

技をつなぐ  
 天然素材のやさしい履き心地  
 素朴な温もりが漂う手仕事の美  
 十和田きみがらスリッパ生産組合様

03

未来への挑戦「特集インタビュー」  
**「棟方志功の想いをつなぐ」**  
 故郷・青森を愛した芸術家  
 板画の道を拓いた芸業を後世へ  
 棟方志功研究家 石井頼子氏

「祖父といっても53歳とまだ若く、創作に忙しい毎日だったようです。祖母は視力の弱い棟方を支えていましたので、家のことは母がほとんど取り仕切っていました。私は祖父の仕事場に入ったり、制作を見たりと触れる機会が多かったので、自然と興味を持ったのかもしれませんが、大学で学芸員資格が取れる一貫校に入学した時から、流れが決まっていたような気がします」

石井さんは大学卒業後、棟方志功が生前からその開館を望んでいた、鎌倉市の「棟方板画美術館」の学芸員となり、閉館するまで勤務します。

「学芸員の仕事を始めた頃は、制作年や作品にまつわるエピソードなど、基本情報や事実関係を整理することに留まっていた。しかし、創作の背景や

心境、周りの人たちとの関係性などを深く知るようになって、同じ作品でも見方が変わってきました。」

例えば、棟方が父親の五十回忌の年に創作した『捨身飼虎（しゃんしこ）の柵』という最晩年の作品があります。実は49年越しに父親の想いに応えた作品で、下の方に「父に答ふ」という文字が記されているのです。何度も見ていた作品なのに、この文字に気づいた時改めて棟方の原点を知った感じがしました。私にとって印象深い作品です」

石井氏は2004年から2006年にかけて全国巡回した日本民藝館70周年記念「魂の板画家・棟方志功展」の企画監修に携わったことを機に、棟方志功研究者として活動しています。

「日本民藝館」は1936年「美の生活化」を目指す民藝運動の本拠地として、東京・駒場に開設された美術館。開館の半年前、棟方志功が第11回国画会展に出品した、二十図の板画から成る大作『大和し美し（やまとしうるわし）』を、初代館長の思想家・美学者の柳宗悦が買上げ

### 芸術家・棟方志功の家族として、研究者として

心境、周りの人たちとの関係性などを深く知るようになって、同じ作品でも見方が変わってきました。」



棟方志功記念館の展示室入口。手前の胸像は、生前親交のあった石川具七尾市出身の彫刻家・高田博厚（1900～1987）によるもの。

## 故郷・青森を愛した芸術家 板画の道を拓いた芸業を後世へ

「板画」(はんが)は板から生まれる板による画(え)であり、「板の命を活かす」芸術と捉え、数々の作品を生み出した世界的芸術家・棟方志功。創作活動は板画のほかに倭画(やまとが)、油絵、書など多岐にわたり、故郷青森をテーマにした作品も数々あります。故郷への想い、板画への想い、創作にかける想い…。棟方志功の想いと作品を後世につなぐ活動をされているお孫さんの石井頼子氏に「知られざる棟方志功」について伺いました。

### 「棟方志功の想いをつなぐ」

棟方志功研究者 石井 頼子氏  
(いしい よりこ)

[プロフィール]

1956年、棟方志功の長女・けよう氏の長女として東京に生まれる。大学卒業後、鎌倉市の棟方板画美術館(2011年閉館)に学芸員として勤務。近年は展覧会監修、執筆活動、講演などを通じ、知られざる棟方志功を伝える活動を行う。著書に『棟方志功の眼』(里文出版)『言霊の人 棟方志功』(同)『もっと知りたい 棟方志功』(東京美術)など。日本民藝館運営委員。

日本民藝館  
東京都目黒区駒場 4-3-33  
TEL.03-3467-4527  
<http://www.mingeikan.or.jp>



「日本民藝館」本館(上)と、西館(旧柳宗悦邸/下)。両館とも1999年に国の有形文化財に登録。

創作の背景や心境、人との関わりを深く知り、同じ作品でも見方が変わってきました。



①「この絵は若木山を描いた作品です。素朴ながら力強い感じがして、個人的に大好きな作品です」(石井さん)。



②日本民藝館エントランス  
「棟方志功と柳宗悦」展(開催期間：2018年1月～3月)。  
③西館内の旧柳宗悦邸の食堂。  
棟方志功はじめ、民藝運動関係者が会食した場所。

インタビューから考える  
つなぐ思い



TOHKnet 営業部 及川 恵乃

“人の想い”をつなぐ大切さと  
チャレンジ精神に共鳴

以前、金沢を旅行した際に「鈴木大拙館」を訪れたことがありました。“禅”を海外に広めた人ですが、石井さんのお話を伺い、実は柳宗悦の師であり、棟方志功とも交流があることを改めて知り、自分の中で相関図ができました。

“人の想い”をつなぐ活動というのは難しいと思いますが、棟方志功の人・作品を理解する上で貴重な活動だと感じました。

石井さんはさらにアーカイブセンターを作り、後世のために棟方志功の膨大な作品をデータ化することを目指されています。先を見据えてチャレンジしていく姿勢がとても素晴らしいと思いました。

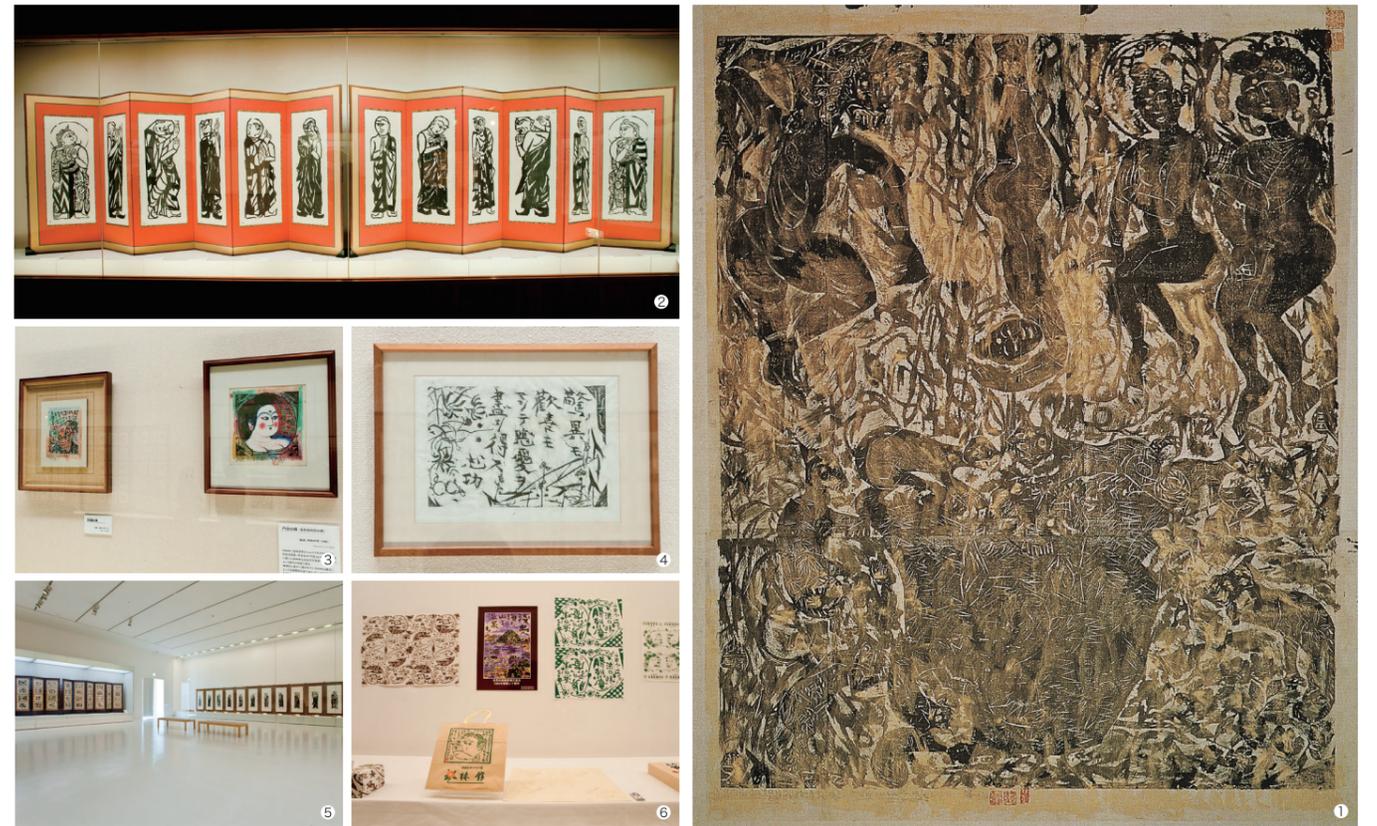
私も青森市の棟方志功記念館に行き、世界中の人々を感動させる棟方作品を体感したいと思います。

私自身は、ネットワークをつなぐのが仕事ですが、そこには“人の想い”があることを意識し、その想いに寄り添い業務に励んでいきたいと思っています。



(写真②～⑤提供/石井頼子氏)

- ①『御鷹図屏風』(棟方志功記念館所蔵)。アメリカ旅行中に描かれた作品だが、画題は青森を想ったもの。棟方志功にとって鷹は八甲田山を象徴するものでした。
- ②1970年、青森ねぶた祭に参加した棟方志功。「ねぶた祭に初めて参加した時、空気、音、匂い、色彩など五感で棟方を感じました」と石井氏。
- ③青森・合浦公園でのスケッチの様子(1930年頃)。
- ④1969年、青森市名誉市民第1号の授与式の様子。故郷が自分を認めてくれた喜びは大きく、懸命に涙をこらえていました。(撮影/飯塚敏彦氏)
- ⑤石井氏幼少の頃。1960年夏、酸ヶ湯温泉にて祖父母と、八甲田山の案内人・鹿内辰五郎氏(愛称・鹿内仙人)とともに撮影。



(写真①～④棟方志功記念館所蔵)

- ①『捨身飼虎の欄』。7匹の子を産み餓えて苦しむ母虎の前に、身を投じる釈迦の物語を題材とした作品。
- ②記念館に展示されている『二菩薩釈迦十大弟子』。世界で評価された代表作。
- ③『門世の欄』(右)は別名『安於母利妃(あおもりひ)の欄』とも言います。『沢瀉風(おもだかかぜ)の欄』(左)には、故郷を想う自作の歌が彫り込まれています。
- ④『不盡(ふじん)の欄』。板画に対する想いを短い言葉に込めた作品。棟方自身がデザインした墓には、ブロンズでかたどったこの作品がはめ込まれています。
- ⑤青森県立美術館には常設の棟方志功展示室があります。⑥青森県立美術館2019年春のコレクション展では、包装紙など棟方志功が手掛けたパッケージデザインを展示中(7月7日まで)。

どこで何を描こうが、気持ちの根底にあるのは故郷の景色や風物。

ことから、柳らの知遇を受けようになります。

「創始者の柳先生をはじめ、民藝運動を牽引された陶芸家の濱田庄司先生や、河井寛次郎先生との出会いは、棟方のその後に大きな影響を与えました。先生方を通して学ぶ機会や発表の場を得る人も広がっていききました。棟方は、ただそこに居るだけでどこかなくおもしろい。人たらしなところがあり、誰からも可愛がられたようです。人の悪口を言わず、どんなに偉い人の前でも子ども前でも態度が変わらないところが一番尊敬できました」と石井氏。

棟方志功の人としての魅力が会う人に強烈な印象を残し、さまざまな出会いにつながっていったのかも知れません。

板画の地位向上のため  
後進に続く人のため

棟方志功の創作活動は、板画をはじめ倭画、油絵、書など多岐にわたりますが、特に板画には並々ならぬ想いがありました。「日展に版画部門を……というのが棟方の悲願でした。浮世絵など日本の版画は、国際的に高い評価を受けてきましたが、国内の美術界での地位はそれほど

高くない。洋画部門に付随するものと位置付けられています」

石井氏は、板画家・棟方志功の想いを代弁するように続けます。「晩年の棟方は権威志向を高め、がむしやりに突進んでいました。人気の高い女人像を、画商に求められるままに多作し、長者番付に名を連ね、寺社に作品を納め、名声を高めていきます。版画の地位を向上させるには、まず自身が最高峰に立たなければ……と考えていました」

版画の地位向上は、日本版道の道を拓くため、後進の作家につなげるためだったのです。

また、「小・中学生たちとともに版画王国をつくらう」と、棟方志功大賞展下小・中学生あおり版画まつり(陸奥新報社主催)の審査長を、晩年まで20年以上務めました。

「ドキュメンタリー『彫る―棟方志功の世界』の中に、私がだんだん立派になるところは、このコンクールが全県に大きく響いて、板画の意味もものが立派になり、青森の板画が日本の板画になり、日本の板画が世界の板画に伸びていく……という言葉が残されています」と石井氏。コンクールは現在も受け継がれ、今年34回目を数えます。

芸術家の想いと作品に  
寄り添い、伝える

「棟方には、小さくて良いので自分の作品をゆつくり見ていただける場所を持ちたい、という夢がありました。1975年11月に開館した青森の棟方志功記念館や、鎌倉のアトリエの庭に建てられた棟方板画美術館は、まさにそんな場所です。生前、棟方が青森市の担当者宛てた手紙には、市民が寛げる庭のある記念館にしたいという気持ちが溢れていました」

石井氏はそうふり返り、棟方志功がどれほど青森を愛していたのかを話しました。棟方志功記念館は、2013

年に閉館した棟方板画美術館を吸収合併。その所蔵作品や資料が移行されたため、棟方最大のコレクションを持つことになり、数多くの棟方作品と市民をつなぐ場所になりました。

「棟方にとって青森への想いは特別で、どこで何を描こうが、気持ちの根底にあるのは八甲田山であり、酸ヶ湯であり、ねぶた、凧絵……など、故郷の景色や風物です。作品からその想いを感じ取っていただけたら」

石井氏は、「知られざる棟方を再発見するような丁寧な展示会を企画していきたい」と、記憶と膨大な作品から棟方志功の想いに寄り添い、伝える活動を続けています。

技を  
つなぐ

「きみがら」とは、どうもこし(きみ)の皮(がら)のこと。写真は皮を取らずに乾燥させたデントコーン。



# 天然素材の やさしい履き心地 素朴な温もりが 漂う手仕事の美

きみがらスリッパ1足分に使われるデントコーンは40〜50本で、年間の生産量は約200足。青森県内や東京などの10店舗で販売しています。1足は、約120gと軽い。夏は涼しく、冬暖かな履き心地で、何度も買い求める方がいるそうです。

きみがらスリッパ  
十和田きみがらスリッパ生産組合 青森県十和田市

## 捨てていた皮を利用し 伝統工芸品に昇華

青森県の南部地方一帯は、平安・鎌倉時代から多くの名馬を輩出した土地柄です。藩政時代に十和田で馬市が開催。明治17年には軍馬育成所(後の軍馬補充部)が開設し、競りで賑わい馬産地として知られるようになりました。

先から編んでいき、底脇の部分を編み込み、踵部分を仕上げで完成します。

皮を裂き、霧吹きで湿らせながら、1枚1枚手で編んでいくため、熟練した組合員でも1足仕上げるのに1日から2日かかります。組合では、12月から3月まで週1回講習会を開き、技術の向上と継承に努めています。

## 市や高校とも連携し 栽培・製作技術を未来へ

トウモロコシで、大量に栽培し身を取った皮は捨てていました。この皮を有効活用しようと、昭和22年頃から作られるようになったのが、きみがらスリッパです。元々、山形県で作られていた製法を有志が学んできて、農閑期の手仕事として広まりました。昭和38年に十和田きみがらスリッパ生産組合が設立されました。平成8年には青森県の伝統工芸品に指定され、生産・販売・普及に努めてきました。

デントコーンの栽培は、除草や収穫など力仕事も多く、「台風が来た時は、特に注意が必要。デントコーンは大きいので、倒れると引き上げるのが大変。早く起こさないとタヌキやクマに食べられてしまいます」と苦労を話す宮本桂子組合長。7年ほど前から、地元の三本木農業高校の生徒が栽培に協力しているそうです。また、高校生や小学生を対象に、ミニ草履の製作体験教室を開き、次世代層への伝承に努めています。

りホームページに掲載するなどして、組合員を増やしていきたいと思っています。また、物産展への出展や首都圏を中心とした県外の商談会でのPRを積極的に行い、販路開拓にも取り組んでいきます」と今後の抱負を話します。十和田の伝統文化に育まれたきみがらスリッパは、これからも地域の力に支えられ、魅力ある工芸品として受け継がれていきます。



皮をむきハウス内で乾燥させ、色の良い皮を選別します。シミや汚れのない、きれいな皮は少ないそうです。

収穫されたデントコーン

除草も三本木農業高校生たちが手伝います。

種まきの様子。

馬を飼う人が徐々に少なくなりましたが、生産も減少してきました。きみがらスリッパを伝承するために、組合員がデントコーンを独自に栽培しています。毎年5月下旬に種を蒔き、7月頃に除草。9月下旬から収穫し始め、10月中旬に収穫します。その後、皮をむいて2週間ほど乾燥します。

スリッパを編み始めるのは11月中旬から。まず、底の芯となる縄をスゲで編み、作業台に縄を掛けて、底のつま先から編み始めます。ある程度の長さになったら裏返し、足型を乗せて甲の部分をつま



十和田市とわだ産品販売戦略課の清野拓人専任 宮本桂子組合長(左)と組合員の高橋京子さん(右)



編み始めるのは、底のつま先から。

底がある程度編んだら、つま先部分に足型を乗せて甲を編みます。



皮は直接水をつけたり、霧吹きで湿らせながら編んでいます。



甲を編み終わったら、底を上にしてかかとに向かって編みます。



底と甲が接続する踵の部分と、かかとの仕上がりが出来栄を左右するポイント。スリッパの仕上がりは、伝統工芸士の資格を持つ組合員がチェックします。



十和田きみがらスリッパ生産組合  
[事務局] 株式会社バワフルジャパン十和田  
〒034-0051 青森県十和田市大字伝法寺字平窪37-2  
TEL.0176-23-3611 FAX.0176-20-8055



## きみがらスリッパの 実演・体験

場所 匠工房(道の駅とわだ隣)  
お問合せ / 0176-28-3790

製作実演 ●開催日 毎月第2日曜日  
●時間 / 10:00~15:00

製作体験 ●開催日 毎月第3日曜日  
●時間 / 10:00~(約4時間)  
●料金 / 3,500円(材料費込・1足)  
※1週間前までに要予約

10年前からカラフルなデザインも登場。布用染料やタマネギ、山菜などを使い草木染めの要領できみがらに色を付けます。配色やデザインは組合員がそれぞれ工夫しており、個性が表れます。

福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!



TOHKnet 福島支社  
阿見 祐太

宮城県出身。2015年入社、2019年3月から福島支社勤務。  
福島市内のほか、郡山市、いわき市を担当。

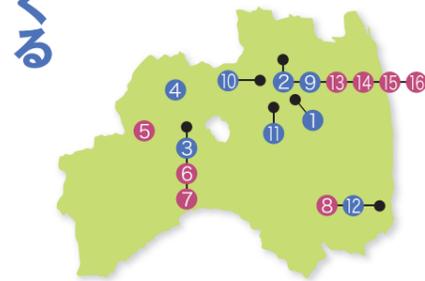
福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!

福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!

福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!



県内に点在する  
人気の温泉地をめぐる



- ①「飯坂温泉」で最も古い「鱒湖湯」。
  - ②多彩な泉質を楽しめる「土湯温泉」。
  - ③豊かな自然に囲まれた「岳温泉」。
  - ④「いわき湯本温泉」のシンボル「ささこの湯」。
- 「飯坂温泉観光協会」 TEL.024-542-4241  
https://iizaka.com
- 「岳温泉観光協会」 TEL.0243-24-2310  
http://www.dakeonsen.or.jp
- 「土湯温泉観光協会」 TEL.024-595-2217  
http://www.tcy.jp
- 「いわき湯本温泉旅館協同組合」 TEL.0246-43-3017  
http://www.iwakiyumoto.or.jp

地元のコトは地元の人に聞くのがイチバン!  
東北・新潟&東京の魅力を社員の目線でお届けします。  
今回ナビゲートするのは  
福島支社の芹澤大介と阿見祐太。  
おすすめの地元ネタとは?

vol.27 福島編

「地域ナビ」  
知りたい、伝えたい!  
地元の魅力

- ①「割烹 新川」の「イタリアンしゃも親子丼」。
- ②名物「円盤餃子」。
- ③「白孔雀食堂」の「ソースカツ丼」。
- ④「あべ食堂」の「中華そば」。

「割烹 新川」 TEL.024-566-2211  
伊達郡川俣町鉄炮町 18  
11:00~13:30、16:00~20:00 ※月曜定休(不定休)  
「福島市観光案内所」 TEL.024-531-6428  
https://www.f-kankou.jp

「名物カツ丼の店 白孔雀食堂」 TEL.0242-27-2754  
会津若松市宮町 10-37  
11:00~15:00 頃(売り切れ次第閉店)  
※月・金曜定休(その他不定休あり)

「あべ食堂」 TEL.0241-22-2004  
喜多方市緑町 4506  
7:30~14:00(スープがなくなり次第終了)  
※水曜定休、月1回火曜定休あり



地域自慢の名物料理を味わう

福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!

福島の定番「グルメ」「温泉」「おみやげ」と旬の観光をご紹介します!

TOHKnet 福島支社  
芹澤 大介

宮城県出身。2009年入社、2013年から福島支社勤務。  
技術グループに所属、福島県全域を担当。



こちらもおすすめ ★旬のさくらんぼ&桃を満喫

福島市の西側に広がる吾妻連峰の麓を走る県道5号線は「フルーツライン」、国道13号線は「ピーチライン」と呼ばれます。沿線には多くの観光果樹園があり、6月中旬から7月中旬にかけて、さくらんぼ狩りを楽しむことができます。人気の「佐藤錦」や甘みのある「正光錦(せいこうにしき)」など、さまざまな品種を食べ比べできる果樹園も点在しています。

節の果物を使ったソフトクリームが評判です。桃の生産量が全国2位の福島では、7月中旬から9月中旬まで多くの果樹園で桃狩りを体験できます。「まるせい果樹園」併設の「農家カフェ 森のガーデン」では、福島の桃を代表する「あかつき」など旬の品種をふんだんに使った桃パフェが人気。レギュラーサイズのパフェには、バニラアイスと桃のジュレの上に1個半の桃が使われ、食べ応え充分です。



⑬「あづま果樹園」の「さくらんぼのソフトクリーム」。

⑭「まるせい果樹園」の「桃パフェ」。

⑮「たわわに実ったさくらんぼ」。

⑯「桃の果樹園」ではさまざまな品種を味わえます。

※写真提供/福島県観光コンベンション協会

こちらもおすすめ ★現地で買いたい福島のおみやげ

柳津町に江戸時代から伝わる、粟ともち米でこしあんを包んだ「あわまんじゅう」。粟のプチプチとした食感ともち米の食感を楽しめる銘菓です。現地では蒸したての柔らかい饅頭を味わうことができます。会津坂下町に本社がある菓子店「太郎庵」の定番「会津の天神さま」。ふわふわのブッセ生地と有塩バターとプロセスチーズを合わせたクリームをサンドしたお菓子です。無料の喫茶スペースを併設した店舗

もあり、購入したお菓子をコーヒーやお茶と一緒に味わうこともできます。いわき市の「白土屋菓子店」は、ジャンボシュークリームが名物の店。シュークリームは4種類あり、一番小さなサイズで直径約10センチ、一番大きいものは直径約25センチもあります。シュー生地はパイのようなサクサクとした食感があり、中のクリームは甘さ控えめで食べやすくなっています。



①柳津町の銘菓「あわまんじゅう」。

②「太郎庵」の「会津の天神さま」。

③「太郎庵 会津総本店」の喫茶スペース。

④「白土屋菓子店」の「ジャンボシュークリーム」(左)と「超特大ジャンボシュークリーム」(右)。

# 夏を象徴する一大イベント 「ぎおん柏崎まつり」が開催されます

## 圧巻の花火に感動 迫力満点の「海の大花火大会」

祇園祭は、もともと疫病や災難を除くためのお祭りで、7月7日から14日に京都の八坂神社の流れをくむ柏崎市西木町の八坂神社が行っていた祭礼です。当時は疫病が流行するたびに、御輿と奉納花火が打ち上げられていました。その後、昭和25年に八坂神社の祇園祭と柏崎の商工祭が一緒になり、「ぎおん柏崎まつり」が誕生しました。当初は、前夜祭行列や芸妓連の踊り屋台などが催されており、現在の形になったのは昭和40年頃からです。花火大会は、仕掛花火やナイヤガラ花火に挑戦し、年々規模を拡大。長岡まつりの大花火大会や片貝まつりの奉納大煙火と並ぶ、越後三大花火の一つとされています。

子どもたちが楽器を演奏しながら街中を行進する「マーチングパレード」、「民謡街頭流し」や「たる仁和賀」などが催されます。一番の見所は、最終日に行われる「海の大花火大会」です。尺玉の300連発をはじめ、海面に広がる海中空スターメインやワイドスターメイン、尺玉100発・斉打ちなど豪華絢爛に夜空を彩ります。



### ぎおん柏崎まつり

- 期間 2019年7月24日(水)～26日(金)
- 場所 市中心街やみなとまち海浜公園など海岸部
- 7月24日(水)
  - 【マーチングパレード】
  - 時間 13:45～15:15
  - 場所 東本町1丁目～2丁目
  - 【民謡街頭流し】
  - 時間 19:00～20:45
  - 場所 東本町2丁目～ニコニコ通り～西本町1丁目
- 7月25日(木)
  - 【たる仁和賀】
  - 時間 18:00～20:30
  - 場所 東本町2丁目～ニコニコ通り～西本町1丁目
- 7月26日(金)
  - 【海の大花火大会】
  - 時間 19:30～21:10
  - 場所 鶴川河口、みなとまち海浜公園、中央海岸

■お問合せ  
**柏崎市役所商業観光課**  
 〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号  
 TEL.0257-21-2334 FAX.0257-24-7714  
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/kanko/event/7/gion/>

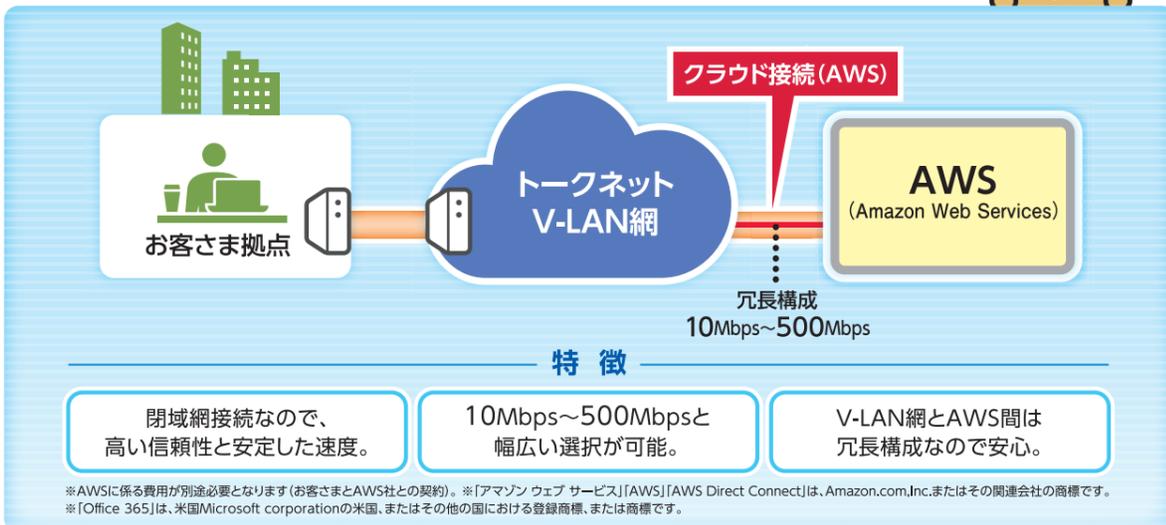
川の長岡、山の片貝と並び、海の柏崎と称され、約1万5,000発の花火が打ち上げられます。  
 ※写真はすべてイメージです。

# クラウド接続サービス(AWS)のご案内

クラウド接続サービス(AWS)は、お客さま拠点をつなぐV-LANとアマゾン ウェブ サービス(AWS)を閉域網で直接接続するサービスです。(※)

2017年にクラウド接続サービス(Office 365 向け)を開始し、ご好評をいただいておりますが、今回はAWSへの接続が追加になり、グローバルなクラウドベース製品を幅広くご利用いただけます。これらサービスの使用により、お客さまは、よりセキュアに安定した環境と、迅速で低コストなパブリッククラウドサービスの利用が可能になります。

(※)接続は、AWSの閉域網サービス[AWS Direct Connect]を利用します。



※AWSに係る費用が別途必要となります(お客さまとAWS社との契約)。※「アマゾン ウェブ サービス」[AWS]「AWS Direct Connect」は、Amazon.com,Inc.またはその関連会社の商標です。  
 ※「Office 365」は、米国Microsoft corporationの米国、またはその他の国における登録商標、または商標です。

## 読者プレゼント

「JoinT」をお読みいただきましてありがとうございます。

vol.27は棟方志功研究家・石井頼子様、青森県の十和田きみがらスリッパ生産組合様などを特集しました。

今後も皆さまのご意見を参考に、よりよい誌面づくりを行ってまいりますので、ぜひアンケートにご協力ください。

**アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で下記の賞品をプレゼントいたします。**

**A** 3名様  
 資生堂パーラーの  
**花椿ビスケットとチーズケーキ**  
 素材でやさしい味わいの「花椿ビスケット」(24枚入)  
 濃厚な風味が広がる「チーズケーキ」(3個入)

**B** 3名様  
 十和田きみがらスリッパ生産組合の  
**きみがらスリッパ**  
 1足(Lサイズ、25～27cm)  
 ※自然素材のため写真とは多少異なる場合もあります。

**C** 3名様  
 会津 太郎庵の**会津の天神さま**  
**ときてきたさ**  
 チーズクリームをはさんだプッセ「会津の天神さま」(10個入)  
 ミルク金時まんじゅう「きてきたさ」(8個入)

締め切り/2019年8月31日(土)

当選発表/厳正な抽選の上、賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。  
 ※プレゼント賞品は内容が変更となる場合がございます。予めご了承ください。※応募に際していただきました個人情報につきましては、本誌プレゼントの運営および「JoinT」の編集に役立てる目的のみ使用いたします。

応募方法

下記URLより「JoinT読者プレゼント」にアクセスして、アンケートにお答えの上、ご応募ください。  
<https://www.tohynet.co.jp/joint/>



編集後記

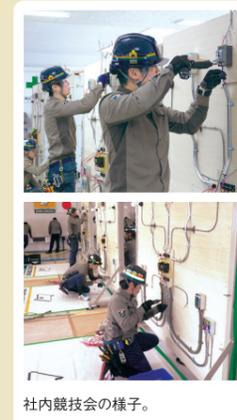
取材を通して、さまざまな分野で活躍している方とお会いして感じるの、自分の想いを伝える言葉や魅力あふれる表現力と、考えていることに挑戦していく実行力が優れていることです。取材にご協力いただいたことに感謝しながら、日々研鑽を重ねていきたいと思っております。

TOHNETのサービスをご利用いただいている  
 ユーザー企業さまをご紹介します。

お客さま紹介

「より快適に、使いやすく」電気に関する技術とサービスを幅広く提供

## 東北電化工業様



社内競技会の様子。



蛍光灯やコンセントの設置など、お気軽にご相談ください。

東北電化工業は、昭和20年8月に山形市で電気工事業を創業しました。以来、電気設備の企画・提案・設計施工アフターサービスまで、一貫した直営体制で技術とサービスを提供。現在では、山形・宮城・福島県の19拠点で営業を展開しています。

電気設備工事を主に、情報通信設備工事、空調・給排水衛生設備工事、省エネ・再生可能エネルギー設置工事など事業内容は幅広く、県内外の庁舎やオフィス、工場、教育・文化施設、医療・福祉施設、商業・レジャー施設、交通インフラなどの施工実績があります。

近年は、個人のお客さまを対象としたサービスの提供に力を入れています。山形県内で家庭向けのテレビCMを放映しているほか、ホームページに「でんかのおまかせ」のコーナーを掲示。お客さまのニーズにお応えするため、サービス体制の拡充を図っています。

また、毎年社内技術競技会を開催。お客さまにご満足いただけるよう技術力を高め、より一層の品質向上に努めています。

東北電化工業株式会社 山形県山形市青田3丁目9番18号 TEL.023-623-0611(代表) <http://www.tohoku-denka.co.jp/>

## IT INFORMATION

～IT 関連分野の旬な情報をお届けします～

### TOHKnet はクラウド型勤怠管理サービスをご提供します

2019年4月、残業時間の上限規制、有給休暇の年5日取得、労働時間の客観的把握などがポイントとなる労働基準法が改正されました。  
国の方針で「働き方改革」が各企業に求められることで、多様な働き方に合わせた勤怠管理の必要性が高まっています。

#### 改正労働基準法の主なポイント

POINT  
1

##### 残業時間の上限規制 【義務】

- 原則として月45時間・年360時間とする。
- 特別な事情があつて労使が合意する場合でも、時間外労働は年720時間以内、時間外労働+休日労働は2～6ヶ月平均80時間以内、月100時間未満とする。

POINT  
2

##### 年次有給休暇の年5日取得 【義務】

- 年間10日以上の有給休暇を付与される労働者（管理監督者を含む）に対して、1年以内に5日以上有給休暇を取得させることが義務づけられる。

POINT  
3

##### 労働時間状況の客観的把握 【義務】

- 健康管理の観点から、裁量労働制が適用される人や監督者も含め、すべての人の労働時間の状況が客観的な方法、その他適切な方法で把握されるよう義務づける。

##### その他

- 月60時間を超える残業割増賃金率、大企業・中小企業ともに50%【義務】
- 産業医・産業保健機能を強化（従業員数50名以上）【義務】
- 勤務時間インターバル制度導入促進【努力】
- 清算期間3ヶ月のフレックスタイム制
- 高度プロフェSSIONAL制度の創設

#### クラウド勤怠管理サービス「AKASHI」

今回の法改正により、適正な労働管理（勤怠管理など）がますます重要になってきます。TOHKnet では法改正にもスムーズに対応するクラウド型勤怠管理サービス「AKASHI」のご提案・ご提供を行っておりますのでお気軽にお問合せください。



クラウド型勤怠管理サービス「AKASHI」の詳細内容は  
ホームページ (<https://www.tohknet.co.jp/service/akashi/>) を  
ご覧ください。